

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 沖縄関係 日本政府  
援助本土米供与(産業開発資金)(1)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43576">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43576</a>

对豪交涉

(回覧番号 1319) 外務省電信案 (分類)

機密表示 (機秘・秘の朱印)	符号表示 略 平	総第 28450 号
漢 我	第 80 号	昭和 44 年 6 月 19 日 20 時 07 分
	大至急 (至急) 普通 LTF	発電係 好

大 臣 兼 郵 政 大 臣 政 務 次 官 事 務 次 官 外 務 審 議 官 外 務 審 議 官 官 房 長	主 管 アメリカ局長 参 事 官 北米才一課長	主 管 局 部 課 (室) 名 米 北 一 起 案 昭 和 44 年 6 月 19 日 石 井 公 博 起 案 者 佐 藤 電 話 番 号 445
--	----------------------------------	---

協 議 先 給 務 参 事 官 経 済 協 力 一 課 長 北 米 才 二 課 長 大 使 在 米 総 領 事	政 策 課 長 経 済 協 力 一 課 長 経 済 協 力 二 課 長 大 使 臨 時 代 理 大 使 代 理	欧 亞 局 長 専 門 機 関 課 長 大 洋 州 課 長 あ て 愛 知 大 臣 発
--	---	--

在 米 総 領 事	大 使 臨 時 代 理 大 使 代 理	あ て
-----------	------------------------	-----

件名  
沖繩向本土米供与計画。  
往電米北一合才1941号に因り。  
19日、北米一課係官より、<sup>(1) 石井</sup> 在米泉州大使信  
マクスウェル参事官に対し、政府<sup>(1) 石井</sup>、琉球政府  
の強い要望と、沖繩に對する主要米穀輸出国の  
関心<sup>(1) 石井</sup>とを考慮し、慎重に検討した結果、1970年

漢 我  
19 152  
字 齊

(※印内は電報録記入)

(昭和四二七一改正)

GB-1

2.  
(暦年)中に35トと1.1971年以降に於ては、今  
後の沖繩の資金、米穀<sup>需要</sup>等を考慮し、更めて  
決めることとし、国内立法手続のすみ次、  
琉球政府との雙方的話し合いに入ることを予定  
通報した。  
その際、先考電官より右と直ちに本国政府  
に報告する旨述べるとも、<sup>本件に因り</sup> 当方の示唆により、  
<sup>のみかたにいた</sup> 琉球政府との正式の申し入れがなされた経緯  
(往電米北一合才2218号別添10)もあり、この  
<sup>(本国)</sup> ことにより、<sup>沖繩と本土との特殊関係に鑑み</sup> 琉球政府に不協の残るのみならず、  
<sup>されざるべし</sup> 国内送荷上、とくに効果等(と判断)を  
右と認めざる示唆した次第であること。(2) 琉球  
政府として、先例の関心も十分理解し、右と  
慎重に検討した結果、今回の決定とすことと

GB-3

外務省

最終版

指摘の上、施政の進捗(希望)と国内の  
 在力のすみで、35%以下に留まることは事実上不可  
 事柄に難し「事情」あること下累々説明し、露政府  
 の理解ある程度を望む(希望)た。(その旨を言明、その  
 表々十分本国に報告加行約(た。)  
 国内法案の内容について、事例に説明し、  
 (案文を送る) (他に同付資料)  
 米に軽電(た。)  
 那翁、高橋大使、本日本政府執行部にて軽電